

# 建築研究所ニュース



平成 29 年 5 月 9 日

**中南米諸国 9 ヶ国 23 名の構造技術者及び建築担当の行政官を対象とした「地震工学」に関する研修を実施します。**

国立研究開発法人建築研究所では、これまでの技術者コースに加え、行政官コースを新設した中南米地震工学研修を 5 月 11 日から実施します（技術者コースは 7 月 21 日まで、行政官コースは 6 月 2 日まで）。参加する国と人数は、エクアドル、エルサルバドル、コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、ニカラグア、ベネズエラ、ペルー、メキシコの 9 ヶ国から選ばれた構造技術者 14 名及び建築担当の行政官 9 名となっています。技術者コースは、研修の総仕上げとして現地の建築材料や工法に関する構造実験を、つくばから場所を移し、エルサルバドル共和国エルサルバドル市で実施します。

中南米（ラテンアメリカ）諸国は地震が頻発する地域ですが、耐震建築の技術普及が遅れており、地震による建物の崩壊でこれまで多くの人的・物的被害が発生し、人材育成が急務となっています。

この研修では、建物の耐震設計・施工・診断・補強の技術と制度を講義・構造実験等により習得させ、中南米地域での地震発生時の被害の軽減を目指しています。

研修をより効果的に実施するため、講義は建築研究所においてスペイン語で、構造実験はエルサルバドル共和国の国立エルサルバドル大学等において 2 週間かけて実施します。なお、実験には、当所で実施している 1 年の研修コースで過去に学んだことのある帰国研修生が講師として参加します。

本研修によって、構造技術者と建築担当の行政官の耐震技術習得、相互理解、人脈形成がはかられ、各国の耐震対策が緊要と考えられる住宅、学校、病院等の建築物に関する耐震技術が普及することが期待されます。

<参考：開講式の日程>

中南米地震工学研修 開講式

日時：平成29年5月11日（木）11:00～

場所：国立研究開発法人建築研究所2階講堂（つくば市立原1）

**（内容及び開講式取材の問合せ先）**

国立研究開発法人 建築研究所

（つくば市立原1）

所 属 国際地震工学センター

職 名 管理室長

氏 名 飯竹理広

電 話 029-879-0678(直通)

e-mail t-yama@kenken.go.jp